

いっぽ だより

はじめのいっぽ弥生

平成27年2月

まだまだ朝晩の冷え込みも厳しく、春の陽気が待ち遠しい今日この頃ですね。

さて、音楽会やお楽しみ会、雪中運動会と盛りだくさんの1月も過ぎて、あと2か月で新年度がスタートしますが、2月、3月も毎日を大切に、楽しい経験を積み重ねていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



◎2月、3月の予定◎

- 2月3日(水) 節分
- 2月17日(水) 親子でいっぽ
- 3月3日(木) ひな祭り
- 3月14日(月)
- ~3月19日(土) 「新たないっぽをふみだそう」週間
※新年度から新しい生活を始めるお友達への贈り物などを検討中です。
- 3月16日(水) 親子でいっぽ

…他、臨機応変に楽しい計画を立案&実行!

◎その他◎

個別面談期間が始まります

※日程を調整後、各ご家庭に連絡いたします。

※2月・3月は個別面談期間のため、療育シートをお休みいたします。

ご了承ください。



◎オマチマンがやってきた！◎

1月16日（土）、世界中を飛びまわって音楽の楽しさを伝えている「いつだって愛と元気のオマチマン」と、奥さんのツマチマンのお二人が、はじめのいっぽでコンサートをしてくださいました。

朝10時開演予定のコンサート。当日、お二人が会場入りしたのは、朝8時。

大きな荷物を運び込んできれいにセッティングし、音量のチェック、どのタイミングで合いの手を入れるかなど、2時間もの時間をかけて、緊張感漂うリハーサルを繰り返していました。

そしていよいよステージ衣装に着替えたら、さすがプロの顔。先ほどのピリリとした雰囲気など嘘のようにニコニコ、子供たちの輪の中に入ると、巧みな演奏と話術で、たちまち笑いのウズを巻き起こしました。

子供たちも前日までに協力して垂れ幕を作ったり、当日お礼状を用意しておもてなし。最後には「オマチマンのファンになった！」と、車が見えなくなるまでお見送りするほど、楽しい時間を過ごせました。

プロだから、即興ですぐに何でも完ペキに出来るのだろうと思いついでいたけれど、プロとして念入りに準備をし、厳しい努力をし続けているからこそ、本番で人の心を動かすことができるんだなあ、と、遠巻きに見守りながら感動しました。



◎お楽しみ会◎

1月23日（土）と28日（木）の二回に分けて、お楽しみ会を開催しました。始まりは「お楽しみ会をしたい!」という子供たちの声がきっかけでした。どんなことをしたいか、自分たちで発案・相談・計画・準備をし、23日は三部構成となりました。

第一部はそれぞれの得意発表と宝探し、第二部は本物の10円玉で200円ずつもらってお買い物ごっこ、第三部は手巻きずしレストランなど…盛りだくさんの内容!

続く28日は、23日に来られなかった子がお客さん役、来ていた子がスタッフ役になってのお楽しみ会です。限られた金額を有効に使うことを学び、全員が明確に自分の役割を持つことで、充実感いっぱい時間を過ごせました。



協力して駄菓子を袋詰めするなど、熱心に準備を進めるみんな。得意発表ではけん玉やマジック、ピアノ演奏を披露したり、紙人形劇では、あきら恐竜も登場する「1匹のこぶた」でアドリブ満載!



お買い物ごっこでは、自分たちでラッピングしたお菓子や文房具などの品物を、本物の10円玉でお買い物。射的コーナーでは、景品を狙って、みんな真剣!なかなか難しいなあ…。



「これ、ください」「10円です」「ありがとう」簡単だけど、いざ言うとなるとドキドキ…。ちゃんと言えたよ!と自信をつけたお友達の表情を見ると、とても貴重な体験だったんだなと感じます。お店番の子はポップコーンをつまみ食いしながらも、「働くって、楽しいね!」と、満足そうでした。

◎親子でいっぽ◎

「帯広に引っ越してきたばかりで、頼れる人がいない…」
そんな保護者の方の声を聞き、「いっぽで何か出来ないだろうか？」ということで始まった『親子でいっぽ』。

1月20日の朝、お母さんたちの表情には、それぞれ育児疲れがにじみ出て、くらしい空気が漂っていました。それでも、ぽつりぽつりと家庭での出来事や自分の気持ちを話すうち、「うちもそうなの！！」と悩みを共有。本音で話すうちに、みんなの顔がなんとも晴れ晴れ！スッキリとその日の会を終えることが出来ました。

『親子でいっぽ』を続けてきたから、お互いの距離が近づいて、本音で話せるようになったのでしょうか。つくづく、「今まで継続して、よかったなあ」と感じました。

「話を聞いてもらいたい」という願望や、「気持ちを共有する仲間がいるんだ」という安心感を提供する『親子でいっぽ』。

前向きに子育てをしていけるよう、今後も継続したいと思っています。



◎異年齢交流◎

長期休み中は、小中学生と幼児と一緒に過ごす貴重な時間。大勢の児童たちに幼児が戸惑わないか心配でしたが、「さあ、ジャンパーを着よう」「外に行くから一緒にトイレに行こうね」と、お兄さんお姉さんが小さな先生になってお世話をかけて出ると、幼児チームもスムーズに活動に移行出来ていました。

幼児も、全身で遊びを楽しむ年長児の姿を見て体の使い方を学んだり、優しい言葉をかけられた経験から、今度は自分たちがお人形に優しくしてあげることが増えるなど、実りのある時間を過ごしたようです。

